

時事新報へ一年三百六十五日一日を休刊せず其代價遞送料廣告へ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇大箇月前金三

箇月前金三十錢〇一箇月前金六錢

○時事新報社ヨリ直送ニ郵便ニテ運送スルモノニ限り右定價ノ外ニ

一箇月十五銭ノ運送料ヲ申受クタ

時事新報廣告料前金  
一五號活字四字面 一日限 二日以上 六口道 七日以上  
一 行 二 付 十二錢 十一錢 十錢五厘

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可シ

## 時事新報

### 米國貿易出生絲論

大に生絲取引法を改良す可シ

我生絲は後來米國と常得惠として大に其販路を開かざる可らずとして併て其手段を求むるに先づ其賣買取引上に大改良を施すと肝要なる可し今伊太利、佛蘭西等歐洲生絲商人の取引法を見るに去る九日の時事新報紙上にも記載したる如く絲商人は數箇の生絲製造場と一手專賣に類する特約を結び云ばり其委托を受けて絲の賣込を周旋する者にして荷主は例年その生絲を同じ絲方に於て品質に云々の缺點あり光澤に如何なる不都合ありて弱弱に因縁の相違ありなど何か苦情を陳するときは實に本地製造場に向て需要者の所望如何を示し又不都合の廉々は夫れり其助言を與へて後來の營業に供するなご絲商人は生絲製造所とも懇親にして需要機屋ども親密の關係あり此兩間に周旋して雙方の聯絡を通すると即ち歐洲絲商人の風習にして近來伊太利生絲商が販路を米國と開かんとするに就ても亦此風習を持参して一定したる製造場の生絲を一定したる得意先に至るが故に機屋は今年より明後年を見込みて安んじて生絲を注文することを得、價に多少の相違あるも商賈上の不定且つ不安心なるに比へ難く其取引の今後大第に廣がるに隨ひ注文人氣の大第に之れに赴くに至るは今よりト知ることを得べし左れば我生絲取引法も日本に就き後日に苦情をきふときは絲商人は其情を察して之を其製絲家に報告ひ双方の情意を貫通して自然製絲改良の端を開くの工風となる可らざれど從來横濱邊に居留する外國商は生絲商人の其又取次を爲す者に傳聞は其苦情を在日本の外國商に告げ送るも馬耳東風より傳聞するを知り需要機屋の苦情も所詮も佛蘭西絲商までには據すれども夫れり我居留外國商を經て日本に生絲商人に達せざるが故に我商人は生絲の明確を傳聞へ要取れば之を限りに關係を絶ち其生絲の眞否

米國產織物額 三千二百萬弗 四千六百萬弗  
輸入織物額 二千三百萬弗 三千四百萬弗  
合計 五千五百萬弗 八千萬弗

右の如く米國にては年々紡織物の需要を増し輸入織物額を加ふると同時に自國產織物額をも増加するの勢あるが故に我生絲商人が製絲家と共に心を協せて米國を常得惠とするの方策を立て以て大に其取引法を改むるふともあらば今後此一方に向て何經我生絲の輸出額を増加するや殆んど況り知る可からざる我輩は我生絲業の當局者が今日に及んで細思熟考、國家百年の貿易の爲めに充分の方策を立てられんとを希望するものあり

○電氣學會臨時大會は明十七日京橋區西船屋町地學

協會に於て催はし當日は諸學士の演説及實地試験もあ

る由右演説には(電氣技術者の教育)志田林三郎(ス

ブレーク氏電車鐵道)藤岡市助(電氣點火器の試験)山川

林靜介の諸氏ありと右終りて午後六時より芝公園内三

季商賣の前に當り生絲一俵六百弗の仕入と見れば一ヤ

ド一弔位の賣出にして正に其商賣を開んとする途端

に我生絲商人は絲荷には年々春秋の季節あり今春

季商賣の前に當り生絲一俵六百弗の仕入と見れば一ヤ